

## 社長ご挨拶

代表取締役 兼 社長執行役員 馬立 稔和

3

- 社長の馬立でございます。本日はお忙しい中、当社のIR Dayにご参加いただき、誠にありがとうございます。
- 当社にとって初開催となった昨年に続き、本日2回目の開催となります。
- これから約2時間、皆様にニコンについてのご理解を深めていただく機会となればと思いますのでよろしくお願いいたします。

2030年のありたい姿

## 人と機械が共創する社会の中心企業

ニコンは顧客の体験価値やイノベーション創出に寄り添うソリューションを提供し、  
人と機械がよりシームレスに共創していく世界で人間の可能性を拡げ、  
豊かでサステナブルな社会の実現に貢献していきます。

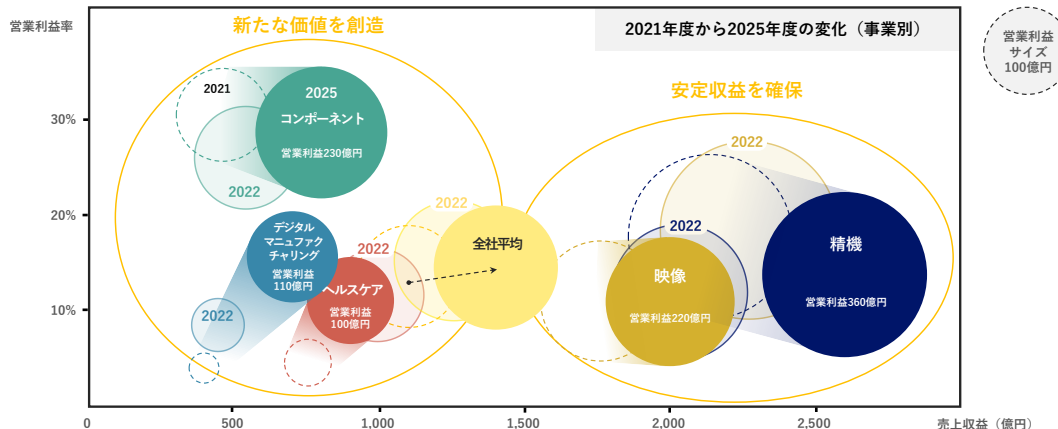
- 当社は、2030年のありたい姿として「人と機械が共創する社会の中心企業」を掲げています。
- このありたい姿に向けて、お客さまと伴走し、お客さまの欲しいモノやコトの「本質」を理解した上で、お客様のイノベーションを支える存在になり、豊かでサステナブルな社会の実現に貢献していきたいと考えています。

## 中期経営計画 | 概要



- 本日は、5つの事業セグメントの中で、成長が見込まれるデジタルマニュファクチャリング事業とヘルスケア事業について、その概要と戦略をそれぞれの事業責任者からご説明します。
- 続いて、ニコンが中計の中核に据えているサステナビリティ戦略について担当部長からご説明し、
- 最後に、投資家の皆さまから頂戴したコーポレートガバナンスに関するご質問に社外取締役が直接お答えするセッションを予定しています。

## 収益ポートフォリオ | 規模と収益性の両立に向けて進捗



光・精密という共通コアから多様な収益を創出、不確実性とリスクへの耐性強化

※ 全社平均は5事業の単純平均。全社費用等（21年度▲285億円、25年度▲320億円）控除前で表示。25年度目標の想定為替レートはUSドル115円、ユーロ130円

6

- 中計初年度の前期2022年度は当初計画を上回る業績となり、順調なスタートを切ることができましたが、2年目となる今期は、中計策定時から見込んでいた通り、前年比減益となる見通しです。
- 全体としては中計の想定内で推移していますが、セグメント別にみると、映像事業やヘルスケア事業が計画を大幅に上回る一方で、半導体関連事業は想定よりも低調で進捗しているなど、ばらつきがみられます。
- 現在、セグメントごとに計画を見直しており、来年春には、中計後半2年間の新たな計数目標をお示しする予定です。
- こうした背景から、本日は、今後の事業方針に関する定性的なご説明が中心となります。

本日で説明する事業範囲

セグメント	事業部	
映像事業	映像事業部	
精機事業	精機事業本部	FPD装置事業部
		半導体装置事業部
ヘルスケア事業	ヘルスケア事業部	
コンポーネント事業	カスタムプロダクツ事業部	
	ガラス事業室	
	デジタルソリューションズ事業部	
デジタルマニュファクチャリング事業	産業機器事業部	
	アドバンストマニュファクチャリング(ADM)事業部	
その他	その他	
全社費用等	親会社の本部部門	
	次世代プロジェクト本部	

2

1

7

- デジタルマニュファクチャリング事業の中でも、金属 3Dプリンター大手のドイツSLM社買収を行ったアドバンストマニュファクチャリング（ADM）事業、について、まずご紹介します。
- なお、SLM社は、すべての買収手続きを9月1日に終え、ニコンの完全子会社となっています。
- ADM事業は、100年を超えるニコンの歴史の中で初めて日本国外、米国西海岸に事業本部を置く、新設の事業です。
- 柴崎とHamid Zarringhalamの2名から、事業の成長性を中心にお話しさせていただきます。
- 次に、ヘルスケア事業についてご説明します。
- ヘルスケアは3年前に黒字となり、足元では100億円以上の営業利益を安定的に上げる収益の柱となっていますが、まだまだ業績の拡大が見込めるものと考えており、今後の成長ストーリーについて事業部長の山口よりご説明します。
- 2時間の長丁場となりますが、本日が投資家の皆さまにとって有意義な会になりますよう、努めてまいります。よろしくお願い申し上げます。